

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域社会に貢献する、自立した人を育てる高校

地域社会とのつながりや人との出会い、多様な学びを通じて、主体的に学び、自らの人生を切り拓くたくましさを育み、地域社会を支える人づくりをめざす。

【育てたい力】

- 多様な価値観を尊重し、違いを豊かさにして、協働できる力
- 自分の考えを的確に人に伝えたり、傾聴できるコミュニケーション力
- 地域や社会に関心を持ち、参画、貢献しようとする意欲と実行力
- 豊かな人権感覚・人権意識

2 中期的目標

1. 新たなステージへの深化

(1) 「多様性の尊重」「地域性の重視」を特長とする高校としての実績、強味を最大限生かし「教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」とする「社会に開かれた教育課程」の理念を追求する普通科専門コースの確立に取り組む。

ア. 将来構想検討委員会、カリキュラム検討委員会、専門コース委員会を開催し、普通科専門コースにおけるカリキュラム・教育内容の充実に取り組む。

イ. 改定版金剛高校トータルステップアッププランの具体化に努める。

ウ. 新たな学校像が地域の中学校や教育関係者、中学生、保護者に共有されるよう、丁寧で広範な広報活動に取り組む。

※ 将来構想検討委員会を年間15回以上実施し、普通科専門コースにおけるカリキュラム・教育内容の充実に取り組む。

2. 確かな学力の育成と進路実現

(1) 授業公開、研修、授業アンケート(年2回)、研究授業を連動させ、年間の授業改善サイクルを充実させる。

ア. ユニバーサルデザインを意識した教育環境の整備、わかりやすい授業づくりに取り組む。

イ. 「主体的・対話的な深い学び」を追求し、真摯に授業改善に取り組む。

ウ. 教員のニーズに応じた研修の充実を図る。

エ. 教職員の「専門性」の向上「同僚性」の発揮を促進し、「ストレス」の少ない「働きやすい」「働きがいがある」職場づくりに取り組む。

(2) 「思考力」「判断力」「表現力」「学びに向かう力」「人と協働できる力」の育成

ア. 生徒の興味や関心を喚起し、社会と繋がる意識を育てる課題解決型、探究型の「思考力」「判断力」を育成する授業づくりに取り組む。

イ. 普通科専門コースにおける「発表」の機会を「総合的な探究の時間」(2年次)に実施するとともに、3年次の芸術鑑賞や文化祭での発表の機会を通して、「表現力」の育成に努める。

ウ. 「総合的な探究の時間」やLHR、学校行事を通じて、「自己・他者・社会の在り方⇒生き方・進路に関連付ける」=「学びに向かう力」や「協働できる力」を育てる。

(3) 学年の学力生活実態調査結果や定期考査の振り返りを活用し、進路への意識づけ、学習の充実を図る。

ア. 学年の進路指導部、学習指導部の連携のもと、早い時期から進路に向けた適切な学習指導を継続的に行う。

イ. 「進路実現満足度100%の学校」をスローガンに、進路について考える機会を増やし、丁寧な進路指導・学習支援を通じて、生徒一人ひとりとって満足度の高い進路実現をめざす。

※「進路実現に向けての取り組みを十分にしている」生徒向け学校教育自己診断肯定的評価80%以上(R1 85.4%, R2 81.9%, R3 78.8%)

※ 生徒向け学校教育自己診断「系・コースや授業は将来の役に立つ」の項目について令和6年度に90%をめざす。(R1 85.4%, R2 88.9%, R3 89.1%)

3. 豊かな人権感覚・人権意識の醸成

(1) 学校行事やクラス活動における生徒相互の関わりや協働性を重視し、自尊感情や生徒相互の信頼感を醸成する。

(2) 生徒の実態に即した課題を設定し、当事者の話を聴くなど、共感に基づく人権学習を通じて、豊かな人権感覚を醸成する。

(3) 実習や体験、発表、地域活動への参加等を通じて自己有用感や自尊感情を醸成し、道徳感や公共心、ボランティア等社会貢献への意識を育てるとともに、よりよい社会の創り手となる意欲や行動力を育成する。

※人権意識調査(3年次)のa～dの値が1年次と比べて増加し、eの値が減少していることで本校3年間の人権教育の成果の確認を行うことを令和6年度まで継続する。

4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実

(1) 人権教育推進委員会、教育相談委員会、支援教育コーディネーターの連携を密にし、校内の教育相談・支援体制の充実を図る。

ア. 高校生活支援カードを有効に活用し、支援の必要な生徒の早期発見、実態把握に努め、必要な支援体制をつくる。

イ. 状況把握、経過観察、情報共有に努める。

ウ. 必要に応じてケース会議を適宜開催し、外部機関や専門家とも連携して、生徒理解を深め、支援の充実に努める。

(2) 共生推進教室の取組みの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。

ア. 共生推進教室で学ぶ生徒への適切な指導、必要な支援を通じて、自己理解と社会参加への自信、就労への意欲を育てる。

イ. 共生推進教室で学ぶ生徒との日常的な交流を通じて、全ての生徒に障がいのある人への理解、共生の意識を育む。

※ 3年卒業時、共生推進教室で学ぶ生徒の就労先、進路先の確保100%をめざす。(R1 100%, R2 100%, R3 100%)令和6年度もその水準を維持する。

5. 規範意識の醸成と自主性・主体性の育成

(1) 遅刻、頭髪、服装、原付、あいさつ、清掃等の指導等、基本的生活習慣やマナーの確立を通じて、社会性を育てる。

(2) 部活動加入を積極的に奨励するとともに、生徒会・委員会活動を活性化し、教育活動のあらゆる機会において生徒の自主性・主体性を引き出す。

※基本的生活習慣やマナーの確立の指導に対する学校教育自己(生徒)の肯定率を60%以上とし(R1 62%, R2 64%, R3 63.2%)令和6年度もその水準を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年11月実施分] 数値はR4年度の肯定的評価 <【 】内はR3年度の肯定的評価>	学校運営協議会からの意見
数値はR4年度の肯定的評価 <【 】内はR3年度の肯定的評価>	第1回学校運営協議会7月16日(土)
1 授業改善	1 学校経営計画
①「学校は、授業改善に積極的に取り組んでいる。」 全学年 64.4%【70.7%】 1年生 64.0%【83.6%】 2年生 58.0%【58.8%】 3年生 71.5%【58.7%】	令和3年度学校経営計画及び学校評価において、目標を達成できない項目について次年度以降改善したい。
②「授業はわかりやすく、学習する意欲がわく。」 全学年 59.3%【69.2%】 1年生 51.0%【78.4%】 2年生 63.4%【64.7%】 3年生 64.5%【59.7%】	2 今年度の取り組みと報告
③「授業は静かで、勉強に集中できる状態である。」 全学年 70.7%【72.7%】 1年生 65.7%【84.6%】	○3学年 修学旅行の代わりにテーマパークが非常に好評で、体育祭等のイベントも盛り上がった。 総合型選抜の申込みがスタートして、指定校推薦の募集も集まっている。41期生全員の卒業と、進路実現のため、全力で生徒と向かいあっていきたい。

府立金剛高等学校

2年生 69.5%【79.4%】	3年生 77.9%【58.7%】
④「金剛高校の教育に満足している。」	
全学年 72.8%【79.5%】	1年生 71.0%【90.3%】
2年生 67.1%【82.3%】	3年生 81.2%【67.2%】
⑤「コース・系や授業は自分の将来に役立つと思う。」	
全学年 89.2%【89.1%】	1年生 93.0%【97.4%】
2年生 89.2%【84.9%】	3年生 85.3%【80.6%】

2 安全で安心な居場所、クラスづくり

⑥「クラスやクラブは一人ひとりが尊重され、気軽に話せるような集団である。」	
全学年 82.8%【83.1%】	1年生 86.9%【89.8%】
2年生 80.7%【78.8%】	3年生 80.7%【76.4%】
⑦「先生はいろいろな問題（いじめ等）を見逃さず対応してくれ、相談に親身になって応じてくれる。」	
全学年 75.8%【74.5%】	1年生 79.3%【81.3%】
2年生 67.8%【71.9%】	3年生 80.9%【67.4%】

3 人権問題への理解、社会的課題への関心

⑧「人権について学ぶ機会があり、さまざまな人権問題が理解できるように工夫されている。」	
全学年 87.4%【92.7%】	1年生 94.6%【97.3%】
2年生 77.7%【100.0%】	3年生 90.6%【86.5%】
⑨「環境問題・国際理解・福祉ボランティアなど、社会の新しい課題を学ぶ機会がある。」	
全学年 72.5%【68.8%】	1年生 77.2%【72.4%】
2年生 68.3%【70.6%】	3年生 72.5%【66.2%】
⑩「ホームルームや「発見」などで、生き方や将来について考える機会が十分にあり。」	
全学年 87.8%【88.8%】	1年生 92.3%【95.1%】
2年生 84.3%【94.1%】	3年生 87.1%【81.3%】

☆3年間の人権意識の変化を比較した「人権意識調査」（3年）

「人権に関心を持っている。」	
3年次 90.3%【84.7%】 ←	1年次 87.8%【81.5%】
「自分を大切にする気持ちが高まった。」	
3年次 83.2%【77.5%】 ←	1年次 80.2%【74.7%】
「人間関係の大切さを学んだ。」	
3年次 94.9%【92.7%】 ←	1年次 97.0%【95.4%】
「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか。」	
○『差別を指摘して話し合う。差別はいけないと伝える努力をする。訴える。』	
3年次 71.3%【41.9%】 ←	1年次 45.2%【49.7%】
○『何もせずに黙っている。』	
3年次 14.0%【15.2%】 ←	1年次 14.0%【17.0%】

4 進路指導

⑪「進路について考えるため、学校は必要な情報や機会を提供している。」	
全学年 88.2%【88.0%】	1年生 84.2%【92.5%】
2年生 91.0%【88.2%】	3年生 89.5%【83.2%】
⑫「進路相談やホームルームなどで、熱心に進路指導している。」	
全学年 74.0%【76.6%】	1年生 65.3%【79.6%】
2年生 73.1%【78.8%】	3年生 83.3%【73.2%】

5 生活指導

⑬「学校生活全体に対する先生たちの指導は、自分やみんなの将来を考えると適切である。」	
全学年 64.6%【71.1%】	1年生 70.9%【80.2%】
2年生 51.5%【63.6%】	3年生 72.2%【62.3%】
⑭「学校生活についての指導は、その効果が十分出ている。」	
全学年 49.7%【59.4%】	1年生 53.8%【71.2%】
2年生 41.1%【52.9%】	3年生 54.8%【47.6%】

6 学校行事・部活動・生徒会

⑮「学校行事（体育祭・文化祭・修学旅行など）は楽しく行えるよう工夫されている。」	
全学年 81.8%【87.9%】	1年生 86.2%【93.3%】
2年生 75.7%【70.6%】	3年生 84.1%【84.6%】
⑯「学校は部活動に積極的に取り組んでいる。」	
全学年 78.5%【81.1%】	1年生 80.7%【86.3%】
2年生 72.3%【78.8%】	3年生 82.7%【75.7%】
⑰「生徒会・委員会活動は活発である。」	
全学年 80.2%【77.8%】	1年生 80.7%【84.9%】
2年生 73.5%【72.7%】	3年生 86.4%【70.9%】

7 全体

⑱「先生は、お互い協力し合っている。」	
全学年 74.7%【70.3%】	1年生 75.0%【85.0%】
2年生 72.0%【63.6%】	3年生 77.1%【55.3%】

○2学年

学期初めのスタートアップで、アイスブレイキングを実施してクラスメイトと交流を深めることができた。今年の修学旅行は、南九州（熊本・宮崎・鹿児島）に決定した。この学年は、どの行事でも生徒たちが主体的に動いているが、提出物が出ていない生徒も数名いるので学習支援ツール等を用いて学力保障を行っていく。

○1学年

今年度は補充入試の関係もあり、全クラスで243名の学年。橋本の体育館でミニ運動会を実施すると、リーダーシップのある生徒が多いことに気づいた。クラブには8割近い生徒が入部している。また、新しく観点別評価が始まる学年になるので、問題集やノート等、色々な数字を引っ張り出して成績を出す必要がある。

○共生推進教室

今年度の卒業生で就職した生徒は毎日真面目に頑張っている。就労移行支援事業所を利用している生徒もいる。また、3年生は全員職場実習が決まっていて、1・2年生は課題もあったが、日々の努力により、サポートなしで授業に入ることができるようになった生徒も多く、頑張っている。

3 意見交換

①ストレスチェックを受けている教員の割合が53%。企業側の認識としては、個人の認識を上回りストレスを抱えている場合もあるので、可能な限り全員に実施する必要があると思っている。

②地域とのネットワークの構築がとても生徒にとって刺激になっていると思う。今後も同様に真摯な取り組みを続けてほしい。

③学校経営計画について、改善点は説明して頂いたが、十分に達成できている◎のところも多く、今後も同様に真摯な取り組みを続けてほしい。

④学校の満足度が1年生で高いのは特徴的。学校の取り組みが生徒に合っていると思う。

⑤「文字のユニバーサルデザイン化」や「授業1時間分の流れを前もって書いておく」等を行うことによって、どの生徒も容易に課題に取り組むことができる。小中だけでなく、高校の先生にもそういった認識を持って欲しい。

⑥共生推進教室ができて、長い時間が経ったが、「なぜこのような取り組みがあるのか」ということが薄れているように思う。共生推進の生徒だけで考えるのではなく、他の生徒にも「共に学び、共に育つ」という理念をユニバーサルデザインの考え方とともに、当てはめてみるのが大切ではないか。

第2回学校運営協議会 11月11日(金)公開授業月間で授業見学を実施。

授業見学について

○たくさんさんの授業を今日1日で見学させて頂いた。生徒たちが真剣に授業を受けていた。○今日見学させて頂いたどの授業も先生の工夫が色々な所に見られた。共生推進教室の授業の様子を見ることができ、改めてその重要性を認識することができた。

○どの生徒も真面目に授業を受けている印象。英語の授業は全て英語で行われていた。授業のスピードが速いように感じたが、生徒にはちょうど良い様子。プロジェクターやコンピュータの活用は効果的。

○全ての教室の黒板にプロジェクターが付いているのが驚いた。ICTを使った教育は効果的だと思った。

○生徒たちが真面目に授業を受けていた。ただ、教室が狭い割に生徒が多いように感じた。現在の感染状況もあるのか、教室の換気にも気を遣っているように思えた。

○生徒たちがタブレットを使っている様子を見て、生徒が飽きないような授業づくりがされているように感じた。また、共生推進教室で個別に対応していく必要性を再認識した。

○どの授業でも先生たちの工夫が見られて、生徒が真面目に授業を受けていた。GIGAスクール構想によって1人1台タブレット端末が配布されている中でどのように授業を展開するかが大切。

学校全体のことについて

○幼保小中高が連携しながらすこやかネットを活用して繋がっていくことが大切ではないか。金剛高校が掲げている「地域とともに」という考え方をこれからも大事にしてほしい。

○今年度から導入された観点別評価を試行錯誤しながらもどのように実施していくか。

●学習指導部長が説明。教科会や評価のふり返り資料について。

●首席が観点別評価ワーキンググループとGIGAワーキンググループの説明。

●校長が金剛授業ワーキンググループの説明。

○3つのワーキンググループの発足は素晴らしいこと。教科横断的に授業改善に取り組んでいくことが求められる。授業だけでなく、学校の中で教職員同士の横の繋がりを大切にしたい。

○昔に比べて、車の送り迎えなどが多いように思える。近隣の方の迷惑にならないような範囲であればいいのだが。

○車でのお迎えの件は、色々な家庭の事情があるから難しい問題。文化祭では、PTAも出店させて頂いた。生徒も喜んでいたので、非常に良かった。

○勤務している中学校の校門前で、金剛高校の生徒が毎朝元気よく挨拶をしてくれて非常に気持ちがいい。

○富田林市では外国籍の人が増えている。多くの人権問題がある中で、いじめアンケート等慎重に対応することが求められる。

<結果と分析>

令和4年度は授業関連の取組みを重点に掲げ、観点別評価WGとGIGAWGで取組みを進めた。第一学年での肯定率の減少幅が大きく、全体に影響した。観点別評価になじむ授業で「指導と評価の一体化」を追求する。第1学年での観点別評価の取組みを活かして次年度は2つの学年での導入となる。生徒の学びを深め、教員がやりがいを感じられるように取り組む。

1人1台端末の活用を進めるGIGAWGでは、本校の実践が教育庁のリーディングGIGAハイスクール事業に選定され、最新のプロジェクターと電子黒板が各教室に配備されるという恵まれた環境で次年度をスタートとすることになった。次年度はICT活用に関する質問を設ける。

3年めに入ったコロナ禍の影響を社会全体で受けており、活動縮小が続いた。本校の行事や自主活動においてもその影響は否めなかったが、COVID-19感染防止対応を続けながら、体育祭、文化祭を行った。制限ある中にも工夫が凝らされ、それぞれの行事のアンケートでは8割以上の満足度を得ている。修学旅行では延期とプラン変更を行ったものの、2年ぶりに宿泊を伴って実施することができた。2学年の学校行事への肯定率は、昨年度に比べ5ポイント上昇している。

肯定率が上昇した項目もあるが、全体的に肯定的回答率の減少がみられ、次年度に向けて生徒の満足度を増す方向で諸活動を見直していく必要がある。

生活指導に関して、全校集会や学年集会などの機会を捉えて、指導の大切を訴え、生徒の理解を促していく。

例年、生徒向けアンケートで、90%近い肯定率を示す①人権について学ぶ機会 ②生徒一人ひとりへの相談、ガイダンス、進路指導 ③行事 ④部活動は本校教育活動の特長である。今年度、肯定的回答率の減少がみられた項目については、要因を洗い出し、対策を講じて取組みを進める。

第3回学校運営協議会2月4日(土)11月に行った学校教育自己診断について

結果が下がっている項目が多い。このことについて、教員でグループワークを行い、その話し合いを受けて、「教員」「生徒」「環境」3つの要因に分けて分析した。

【教員】多忙感やコミュニケーションの課題。

【生徒】観点別評価の導入により、従来の学力の捉え方・授業のあり方も変わっている。

【環境】産育休・介護休・病休等で年度途中で教科担当を変更したクラスがある。コロナ禍が続いている。

○数字と向き合って、対策を項目別に打っているように思える。新型コロナウイルスの問題等の環境の問題も大きいのではないかと考えている。私が感じたのは、先生の団結の数値が悪くなっている。異動があるとはいえ、昔はもっと意見交換できたのではないかと。

○毎朝、元気にあいさつしてくれる金剛高校の子どもたちを見ていると、数値が納得できない。私なりに色々な観点で分析をした結果、今年度からアンケートの項目で「わからない」が増えている。それによって、データの比率に違いが出たのではないかと。実は、「わからない」の項目を無視すれば、肯定的な意見の割合は依然として多く、必ずしも否定的に捉える必要はないのではないかと。

●昨年度と異なった計算方法で今年度の肯定率が算出されて、低い数値となっていることが判明 → 後日、再計算し、修正値を発表した。

○低くなっている数字を見て驚いた。自由記述には具体的な意見がたくさんあるとはいえ、生徒の意見をそのまま採用することは学校教育活動のバランスを取るためには難しい。

○1年生の学習に対する意識が低い。そうすると、他の項目でも良い結果が期待できなくなるのは当然かもしれない。ロールモデルが身近に必要なのではないかと。

●観点別評価で育ってきた1年生の学びが深まるよう授業改善の取組みを更に進める。

○昨年度は、41期生(現3年生)の回答率が17%であった。今年度は全ての学年において、80%を超えているので、データとして信頼性は高いのではないかと。生徒と保護者の回答についても、結果の内容が乖離することなく、同じようになっていることも信頼性のある部分だと考えている。前回の授業見学では、先生の取り組みの姿勢も高く、授業アンケートも依然として高い数値だと聞いたので、少し安心している。先生の多忙感を取り除くことも、子どもたちとの繋がりをつくるために大切なのではないかと。

●働き方改革の具体的な取組みを増やす。

○今回のこの(再計算修正前の)数字を見て、危機的状況と捉えても仕方ない。ただ、数字を見える化して、分析をしてきたことはポジティブに捉えていいと思う。生徒も教員もワクワクして通えるような学校づくりが大切。今回、その改善のために、グループワークを行ったと聞いたが、いろいろな項目を学年、部署を問わないで課題に向き合ってほしい。学年によって結果も異なっているので、学年により背景・要因も総合的に分析してほしい。校長は学年別で分析した時にどのように考えているか。

●学年で比べるのではなく、例えば、41期生がどのように3年間で変化をしていくのかという視点で見ている。3年生は3年間、金剛で過ごして肯定率が年々上がっている項目も多い。「先生が親身に相談にのってくれる」割合は他学年と同様少ないので、教員の働き方・環境を整えなければならないと感じている。2年生は修学旅行のプラン変更等の行事に関することが影響しているのではないかと。1年生は「授業がわかりやすく、学習する意欲がわく」という項目が低い。高校に求められている授業のあり方も変わってきている。新しい教育を受けた生徒たちに合わせて私たち教員も変わらなければならないと感じている。

学校経営計画(令和5年度)について

令和5年度の学校経営計画では、「観点別評価の研究」「授業のユニバーサルデザイン化による共生推進教室を含む授業改善への取り組み」「共生推進教室の1人1台端末利用」「教員のストレスチェック受検率向上」「すこやかネットに積極的に参加し地域と幼小中校の連携強化」「生徒が教員に気軽に相談できる環境づくり」等、今年度の学校運営協議会の意見を盛り込み作成した。

○学校経営計画の項目それぞれの目標を遂行達成すれば、金剛高校のめざす学校像に本当につながっていくということが一番大切だと思う。目標設定をしっかり、後はそれを実行。

○中学2年生が金剛高校を訪問して、体験授業させて頂き本当に良かった。幼小中高連携も計画に盛り込んでくれたら嬉しい。「英語、社会の人生ゲーム等、授業がすごかった」「プロジェクターがすごかった」「クラブの数にびっくりした」など、いろいろと子どもたちが感想を書いている。高校生もそれを知れば自信になるのではないかと。

○アンケートの結果を見て、先生が多忙で余裕がないということ、数字で見てさらに認識した。そこが改善されないと、辛いのではないかと。対策を立てれば立てるほどいいのではなく、そのタスクをこなすにも負担がかかることを考慮してほしい。

○先生の負担があると思う。多くの情報が可視化され、教員の余裕もなければ、数も足りない。教育センターが行っている研修プログラム等を活用しながら先生の視野を広げるような取り組みが効果的ではないかと。

○特別支援教育の観点から言えば、共生推進教室が新規就職先を2か所(2名)も開拓されたことは素晴らしい。また、授業の目標の設定を授業の初めに示すことは、とても意義深い。最後に、アンケートにおいて、教員の多忙感により、子どもとのやりとりができないという結果が出ているが、短い時間の些細な言葉がけだけでも結果が変わると思っている。

○通学路で挨拶してくれるような金剛の生徒たち。一言一言の会話を大切にしたい。愛着を求めている生徒に対して安全基地が学校の中にあることはとても重要。教職員組織を含めたより良い環境づくりが、より良い学校教育にも繋がると考えている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度数値]	自己評価
1. 新たなステージへの深化	「多様性の尊重」「地域性の重視」を特長とする高校としての実績、強味を最大限生かし「社会に開かれた教育課程」の理念を追求する普通科専門コース再編に取り組む	将来構想検討委員会、カリキュラム検討委員会、専門コース委員会を開催。 普通科専門コースにおける、カリキュラム、LHR・総合の計画、行事等の精選など、教育活動の充実を図る。	将来構想検討委員会等現在及び金剛高校の将来像に対する肯定的評価が多数を占めること。 教職員向け学校教育自己診断 「教育活動を振り返り改善に向けて取り組む」85%以上 [85%]	金剛高校のミッションを策定。コロナ禍3年めとなるが、教育課程をほぼ実施することができ、地域連携の取組みも次第に復活している。観点別評価を導入した1学年においては多忙感があり、ゆとりをもって教育活動を振り返ることは困難であった。 肯定率 (78.6%) (△)
2. 確かな学力と進路実現	ア わかりやすい授業づくり イ 「思考力」「判断力」「表現力」「学びに向かう力」「人と協働できる力」の育成 ウ 地域と連携しての交流、体験学習学習成果の発信	ア. 授業改善サイクルの充実を図る。年2回の授業アンケートだけでなく、生徒との対話を通じて授業改善に努める。 ・授業改善研修の充実。 ・授業公開、各教科での研究授業の実施。 ・「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業改善。 ・教員間の授業交流による授業改善の促進。 ・対面授業での端末・クラウドサービスの活用 ・授業規律の指導を徹底する。 教職員の「専門性」の向上「同僚性」の発揮を促進し、「ストレス」の少ない「働きやすい」「働きがいがある」職場づくりに取り組む イ. 「主体的で対話的な深い学び」を意識した課題解決型・探究型の授業を実施し「思考力」「判断力」を養う。 「総合的な探究の時間」での発表や、行事の中での学びを通して、「表現力」「人と協働する力」を養う。 エリア・コースでの学習の充実を図り、「総合的な探究の時間」、LHR、学校行事を通じて「学びに向かう力」「人と協働する力」を育成する。 ウ. 特色ある授業や取組みでの地域の学校、施設、団体との交流、体験を継続、推進する。 生徒の成長や学習成果を地域に発信する。 発達と保育 : 保育所での実習 保育音楽 : 保育所交流 進路指導部 : 幼稚園交流 社会福祉基礎 : 福祉施設との交流 手話・点字 : だいせん高等聴覚支援学校との交流	ア. 生徒向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」60%以上 [69.2%] 「学力を伸ばす工夫」69%以上を維持 [72.3%] 「授業が静かで集中できる」77%以上 [72.7%] 「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」65%以上を維持 [67.6%] 「授業改善に積極的」73%以上 [70.7%] 教職員向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」92%以上を維持 [97.7%] 「学力を伸ばす工夫」92%以上 [95.5%] 「お互い協力し合う」78%以上 [80.0%] 学校全体のストレスチェックが基準値を越えない。 [126] 受検率 [53%] イ. 生徒向け学校教育自己診断 「系・コースの授業は将来の役に立つ」88%以上を維持 [89.1%] 「HRや「発見」などで、生き方や将来について考える機会がある」85%以上を維持 [88.8%] 芸術鑑賞アンケート 「芸術鑑賞を通じて、文化祭などでの表現力に生かすことができるか」70%以上を維持 [R1 81.0%] ウ. 生徒向け学校教育自己診断「授業や部活動で他の学校や地域の人々と関わる機会」60%以上 [60.3%]	ア. 授業関連の取組みの効果が薄い。観点別評価の授業で学んできた1年生の肯定率が低いことから、授業形態の見直しが必要である。「指導と評価の一体化」を進め余裕ある授業を展開する。 肯定率 (59.3%) (△) 肯定率 (67.8%) (△) 肯定率 (70.7%) (△) 次年度質問を「授業に集中できる」に変更する。 肯定率 (67.3%) (○) 肯定率 (64.4%) (△) 教職員が授業改善に取り組む余裕を生み出す工夫をする。 肯定率 (96.7%) (○) 肯定率 (69.0%) (△) (129) (△) 受検率 [87.8%] (○) イ. 地域での実習等が復活したこともあり高い肯定率を達成。本校の特長である系・コースの授業について昨年度も上回る肯定率であった。 肯定率 (89.2%) (◎) 肯定率 (87.8%) (◎) 肯定率 (87%) ウ. コロナ禍3年めで4件の地域交流が復活しているが、目標値には届かなかった。 肯定率 (57.5%) (△)

府立金剛高等学校

	エ 進路に向けた意識の醸成	<p>地域コミュニケーションコース ：障がいのある人との交流 ：保育所交流</p> <p>エ. 各学年の進路指導部と学習指導部の連携を軸に生徒情報や進路課題を共有する。1年次からキャリア教育に取り組み、進路に向けた意欲を育てて2年次では進路先を見据え、3年次の進路相談指導で進路選択を確かなものにする。 ・進路関連目標数値を達成できるよう進路部、学年、担任で相談指導に力を入れる。</p>	<p>エ. 生徒向け学校教育自己診断の「進路に必要な情報や機会の提供」 90%以上を維持 [88.0%] 「進学講習や校内模試等進路実現の取り組み」80%以上を維持 [78.8%] 「進路相談や LHR での熱心な進路指導」80%以上 [76.6%]</p>	<p>エ. 次年度、新たにタブレット端末を活用した情報提供の取組みを始めて目標値に近づける。 肯定率 (88.2%) (△) 肯定率 (68.4%) (△) 肯定率 (74.0%) (△)</p>
3. 豊かな人権感覚の醸成	<p>ア 生徒相互の関わり、協働性の重視 自尊感情や相互の信頼感を醸成する人権学習、総合学習、学校行事</p>	<p>ア. 新入生オリエンテーション(1年)、クラススタートアップ、個人面談、遠足に至る年度当初クラスづくりを通じて、安心感のある高校生活を支援する。 行事等のクラス活動を通じて、生徒相互の関わりや協働性を育てる。</p> <p>イ. 生徒の実態に即し、当事者との出会いや体験等、生き方を考えさせる人権学習、総合学習、多様性教育を企画し、実施する。</p> <p>ウ. 校内教職員人権研修の更なる充実。校外人権研修への参加促進。</p> <p>エ. 生徒に寄り添う時間や新しい課題に取り組むための職員研修の時間を確保するために教職員の1人1台端末を活用し、職員会議のペーパーレス化を実施するなど会議の効率化を推進する。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断 「金剛高校に満足している」80%以上を維持 [79.5%] 「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラス」80%以上維持 [83.1%]</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断 「人権問題の理解」85%以上 [92.7%] 「社会の新しい課題を学ぶ機会」80%以上 [68.8%]</p> <p>人権意識調査(3年) a「人権に関心を持っている」 b「自分を大切にすることが高まった」 c「人間関係の大切さを学んだ」 「差別的な言動を見聞きした時の態度」について d『差別を指摘し話し合う。伝える努力をする。訴える』 e『何もせずに黙っている』という5項目の1年次からのa～dは増加、e減少を目標に取り組む。</p> <p>ウ. 「SDGs と人権」をテーマとした研修を1回実施する。</p> <p>エ. 職員会議のペーパーレス化率90% [0%]</p>	<p>ア. 3年生の満足度は14ポイント上昇。1年生と2年生の満足度低下が全体に影響している。 肯定率 (72.8%) (△) 肯定率 (82.8%) (○) 人権を尊重したクラスづくりに引き続き努める。</p> <p>イ. 人権 HR 計画の確実な実行に取り組む 肯定率 (87.4%) (○) 肯定率 (72.5%) (△) 目標値には届かなかったが、肯定率の上昇がみられているので引き続き取組みを進める。</p> <p>a～dの項目に関して1年次から3年次を比較すると5項目中、3項目が増加(3年次←入学次 a90.3%←87.8%, b83.2%←80.2%, d71.3%←45.2%)と数値が伸びている。特にd「差別を指摘し話し合う。伝える努力をする。訴える」の伸びが26%と大きい。これは金剛高校で取り組んできた人権学習の成果といえる。 (○)</p> <p>項目cに関しては、(3年次←入学次 c 97.0%←94.9%)とやや減少しているが、数値自体が高く、減少が課題を示しているとは考えにくい。</p> <p>項目eに関して、1年次から3年次を比較すると(3年次←入学次 14.0%←14.0%)数値上の変化がない。差別に対して行動しない生徒が行動できるようになる人権学習をめざす。</p> <p>12/8実施 (○) 講師：大谷大学 岡島克樹 教授 (90.0%) (○)</p>

府立金剛高等学校

4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実	<p>ア 生徒の実態把握ときめ細やかさや支援、指導</p> <p>イ 共生推進教室の教育内容の充実、ともに学びともに育つ教育の推進</p>	<p>ア. 生徒支援カード（1年）の情報を学年会議、教育相談委員会で共有し、支援の必要な生徒の早期の発見、実態把握に努め、必要に応じた支援体制をつくる。</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会で生徒状況の経過観察を行い、必要に応じてケース会議を開く。外部機関や専門家とも連携して、支援にあたる。その中で、配慮や支援が必要な生徒、同和地区出身生徒、外国にルーツを持つ生徒等の状況確認を毎回行う。</p> <p>共生推進教室の生徒についても、共生推進コーディネーターと密に連携し、適切な支援、ケース会議の開催を行う。たまがわ高等支援学校と連携して、共生推進教室の生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援を行う。</p> <p>ウ. 本校で学ぶすべての生徒に共生推進教室の意義を周知し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断「問題を見逃さず相談に応じてくれる」80%以上を維持 [74.5%]</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会のコンスタントな開催。年間各15回以上。[教育相談16回、人推委18回]</p> <p>要配慮生徒等の状況確認年間各15回以上。</p> <p>ウ. 共生推進教室の生徒が安全で安心して学校生活を送る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校や長期欠席者を「0」にする。 (○) ・いじめなどの人権侵害事象を生起させない。 (○) ・すべてのクラス活動、学校行事に参加する。 (○) ・卒業時に進路が決定している。 (○) 	<p>ア. いじめ対応フローを作成、共有した。次年度にも活かしていく。肯定率（75.8%）（△）</p> <p>[教育相談21回、人推委25回]（◎）上記の会議で毎回確認している。（◎）</p>
5. 規範意識の醸成	<p>ア 基本的生活習慣の確立</p> <p>イ 部活動の促進及び生徒会活動の活性化</p>	<p>ア. 生徒指導部と学年が一体となって遅刻、頭髪、服装、原付等の指導を行う。あいさつ、特に朝のあいさつの励行を全教員で推進する。半期ごとに指導の振り返りを行う。</p> <p>イ. さまざまな機会を通じて、新入生への部活動への参加を積極的に推進するとともに生徒会執行部を中心に生徒会活動を活性化させる。学年、部活動におけるリーダー育成を意識した関わりの促進。</p>	<p>ア. 年間遅刻者 600件以下を目標に取り組む [495件]</p> <p>生徒向け学校教育自己診断「学校生活全体の指導は適切か」75%以上 [71.7%]</p> <p>「遅刻頭髪、服装、原付等の指導は適切か」60%以上 [63.2%]</p> <p>半期ごとに指導の振り返りを行い職員会議で共有する。</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断「学校は部活動に積極的」80%以上 [81.1%]</p> <p>「生徒会・委員会活動は活発」75%以上 [77.8%]</p>	<p>ア. 引き続き丁寧な指導を行う。[865件]（△）</p> <p>肯定率（64.6%）（△）</p> <p>肯定率（49.5%）（△）</p> <p>学年集会等の機会を捉えて、生活指導の大切さを訴え、生徒の理解を促す。</p> <p>肯定率（78.5%）（△）</p> <p>肯定率（80.2%）（◎）</p> <p>文化祭での生徒会の取り組みや生徒会企画の階段アート、アンブレラスカイ等に注目があつまった。</p>